

修了評価の方法

評価基準作成者：株式会社エヌジェイアイ

1.出題範囲

- 2 『 介護における尊厳の保持・自立支援 』から
- 9 『 ことごとからだのしくみと生活支援技術 』 までとする。

2.出題形式

択一形式、記述式とする。

3.出題数、合否判定基準

科目名	修了評価のポイント	修了評価法 (演習の場合-項目記載)	合否判定基準
介護における尊厳の保持・自立支援	介護の目標や展開について、尊厳の保持、QOL、ノーマライゼーション、自立支援の考え方を取り入れ概説できる。	通信添削課題 (別紙参照)	11問以上正解で合格とする
	虐待の定義、身体拘束、及び利用者の尊厳、プライバシーを傷つける介護についての基本的なポイントを列挙できる。		
介護の基本	介護職の目指すものは何かを概説でき、家族による介護と専門職による介護の違い、介護の専門性について列挙できる。 介護職として共通の基本的な役割とサービスごとの特性、医療・看護との連携の必要性について列挙できる。	通信添削課題 (別紙参照)	11問以上正解で合格とする
	介護職の職業倫理の重要性を理解し、介護職が利用者や家族等と関わる際の留意点についてポイントを列挙できる。		
	介護職におこりやすい健康障害やストレス、それらに対する健康管理、ストレスマネジメントのあり方を列挙できる。 生活支援の中で起こりうる事故や感染、介護におけるリスクを列挙できる。		

介護・福祉サービスの理解と医療との連携	生活上での介護保険制度の位置づけを理解し、各サービスや地域支援の役割について列挙できる。 ケアマネジメントの意義を概説でき、サービスの種類と内容、利用の流れについて列挙できる。	通信添削課題 (別紙参照)	13問以上正解で合格とする
	医療行為の考え方、一定の要件を基に介護福祉士等が行う医療行為について列挙できる。		
	介護保険制度や障がい者自立支援制度の理念、また、財源や介護保険料負担の枠について列挙できる。		
介護におけるコミュニケーション技術	共感、受容、傾聴など、基本的なコミュニケーション上のポイントについて列挙できる。 家族が抱きやすい心理や葛藤の存在と介護における相談援助技術の重要性を理解し、介護職として持つべき視点を列挙できる。	通信添削課題 (別紙参照)	9問以上正解で合格とする
	言語、視覚、聴覚障がい者とのコミュニケーション上の留意点を列挙できる。 記録の機能と重要性に気づき、主要なポイントを列挙できる。		
老化の理解	加齢・老化に伴う変化、特徴、社会面、身体面、精神面、知的能力面などの変化に着目した心理的特徴について列挙できる。	通信添削課題 (別紙参照)	8問以上正解で合格とする
	高齢者に多い疾病の種類とその症状や特徴及び治療・生活上の留意点、及び高齢者の疾病による症状や訴えについて列挙できる。		

	科目名	修了評価のポイント	修了評価法 (演習の場合-項目記載)	合否判定基準
	認知症の理解	認知症ケアの理念や利用者中心というケアの考え方について概説できる。健康な高齢者の「物忘れ」と、認知症による記憶障がいの違いについて列挙できる。 認知症の中核症状と行動や心理症状の特性、及びそれに影響する要因を列挙できる。	通信添削課題 (別紙参照)	12問以上正解で合格とする
		認知症利用者の健康管理の重要性と留意点、廃用性症候群予防について概説できる。認知症利用者の生活環境の意義やその在り方について主要なキーワードを列挙できる。		
		認知症利用者とのコミュニケーションの原則、ポイントについて理解でき、具体的な関わり方を概説できる。 家族の気持ちや、家族が受けやすいストレスについて列挙できる。		
	障がいの理解	障がいの概念とICFについて概説でき、各障がいの内容・特徴及び障がいに応じた社会支援の考え方について列挙できる。 障がいの受容のプロセスと基本的な介護の考え方について列挙できる。	通信添削課題 (別紙参照)	9問以上正解で合格とする
I・基本知識の学習 こころとからだのしくみと生活支援技術	介護の基本的な考え方	主だった状態像の高齢者の生活の様子をイメージでき、要介護等に応じた在宅・施設における高齢者の生活について列挙できる。	通信添削課題 (別紙参照)	13問以上正解で合格とする
		要介護度や健康状態の変化に沿った基本的な介護技術の原則について概説でき、生活の中での介護予防、介護予防プログラムによる機能低下の考え方や方法を列挙できる。		
	介護に関するこころのしくみの基礎的理解	人の記憶の構造や意欲を支援と結び付けて概説できる。		
	介護に関するからだのしくみの基礎的理解	利用者の身体の状況に合わせた介護、環境整備についてポイントを列挙できる。 人体の構造や機能が列挙でき、なぜ行動が起こるのかを概説できる。		

	科目名	修了評価のポイント	修了評価法 (演習の場合-項目記載)	合否判定基準
こ こ ろ と 生 か ら 活 ら 支 だ 援 の 技 し く の み と 講 義 生 活 支 援 技 術	生活と家事援助	主だった状態像の高齢者の生活の様子をイメージでき、要介護等に応じた在宅・施設における高齢者の生活について列挙できる。	通信添削課題 (別紙参照)	6問以上正解で合格とする
	快適な居住環境整備と介護	安全で快適な住まいの工夫を理解し、介護保険制度上の住宅改修の目的、福祉用具貸与の購入費の支給について列挙できる。	通信添削課題 (別紙参照)	6問以上正解で合格とする
	整容に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護	整容の意義について概説でき、指示や根拠に基づいて部分的な介護を行うことができる。	・爪切り ・口腔ケア ・身体状況に合わせた衣服の着脱介護	すべての項目ができて合格とする
	移動・移乗に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護	体位変換と移動・移乗の意味と関連する用具・機器や様々な車いす、杖などの基本的使用方法を概説でき、体位変換と移動・移乗に関する体のしくみが理解され、指示に基づき介助を行うことができる。	・車いすへの移乗、全面介助でのベッド・車椅子・トイレへの移乗、 ・移動介護（車いす、杖、歩行器） ・車いすの操作方法	すべての項目ができて合格とする
	食事に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護	食事の意味と食事を取り巻く環境整備の方法が列挙でき、食事に関する体のしくみが理解され、指示に基づき介助ができる。	・さまざまな状態像に合わせた食事の介助方法 ・福祉用具を使った介助法 ・誤嚥した場合の対応法	すべての項目ができて合格とする
	入浴、清潔保持に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護	入浴や清潔の意味と入浴を取り巻く環境整備や入浴に関連した用具が列挙でき、入浴に関する体のしくみが理解され、指示に基づき介助ができる。	・さまざまな清拭の介助 ・手浴、足浴の介助 ・洗髪、髭剃りの介助 ・シャワー浴、一般浴の介助	すべての項目ができて合格とする
	排泄に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護	排泄の意味と排泄を取り巻く環境整備や関連した用具が列挙でき、排泄に関する体のしくみが理解され、指示に基づき介助ができる。	・車いす利用者のトイレ介助 ・ポータブルトイレの介助 ・ベッド上での介助 ・オムツ交換の方法	すべての項目ができて合格とする
	睡眠に関したところからだのしくみと自立に向けた介護	睡眠の意味と睡眠を取り巻く環境整備や関連した用具が列挙でき、睡眠に関する体のしくみが理解され、指示に基づき介助ができる。	・安眠のための介護の工夫 ・ベッドメイキングの方法 ・安楽な体位の方法 ・褥瘡予防法	すべての項目ができて合格とする
死にゆく人に関したところからだのしくみと終末期介護	ターミナルケアの考え方、対応の仕方、留意点、本人・家族への説明と了解、介護職の役割や他の職種との連携について列挙できる。	筆記試験 (別紙参照)	7割以上を合格とする	

	科目名	修了評価のポイント	修了評価法 (演習の場合-項目記載)	合否判定基準
Ⅲ ・ 生 活 支 援 技 術 演 習	介護過程の基礎的理解	介護過程の目的、意義展開に必要な構成要素を概説でき、指示に基づきアセスメントできる。	①アセスメント ②介護計画書の作成	①アセスメントはすべての項目ができて合格とする ②介護計画書は7割以上を合格とする
	総合生活支援技術演習	事例による展開から、一連の動作ができる。 (認知症・片麻痺)	・利用者への声掛け ・衣服着脱 ・移動の介助 ・食事の介助 ・排泄の介助 ・入浴の介助	すべての項目ができて合格とする
	振り返り	過程、身体、心理、社会面を総合的に理解するための知識の重要性やチームアプローチの重要性を説明できる。		
修了試験	修了試験		筆記試験 (別紙参照)	7割以上を合格とする

※「列挙できる」・・・知っているレベル

※「概説できる」・・・大体のところを説明できる

※「説明できる」・・・具体的に説明できるレベル

5. 不合格の際の取扱い

(通信課題)

※合格基準に満たなかった者は、スクーリングで講師の再指導により評価基準を満たすまで、

再評価を行なう。

(講義・演習)

※合格基準に満たなかった者は、講師による再指導により評価基準を満たすまで、

再評価を行なう。

(修了試験)

※合格基準に満たなかった者は、合格基準を満たすまで、再試験を行う。

その際の再試験料は、3,000円とする。